

「端数倶楽部」による障がい者支援

富士ゼロックス栃木株式会社

富士ゼロックス栃木株式会社では従業員のボランティア活動への参加に対して社内制度を整備し、積極的な支援を行っている。従業員が自発的、自主的に運営するボランティア団体「端数倶楽部」の活動は、社内での小さな取組の積み重ねが、大きな成果として地域に還元されている。また、従業員が給与から拠出した寄付金に企業が上乘せするマッチングギフトの形で、地域のために活動する団体に対して寄付をしている。

□■□会社概要□■□

1988年に富士ゼロックスの地域販売会社として誕生し、2005年には完全子会社となった。県内に4つの拠点をもち、自社製品を主としたOA機器の販売・卸、保守サービス、ネットワークシステムの構築などを通じたソリューションビジネスを展開している。

■□■企業データ■□■

●**企業理念** 社内外の信頼を基盤とし、知の創造と活用の場を構築して、顧客には「感動」を、社員には「よろこび」を、地域社会には「やさしさ」を提供しつづける企業を目指します。

●代表者

鈴木 久夫（代表取締役社長）

●所在地 〒321-0953

栃木県宇都宮市東宿郷 6-1-7

●設立年 1988年

●従業員数

137名（2010年6月現在）

●TEL 028-637-5111

●FAX 028-637-5146

●URL

www.fujixerox.co.jp/tcx/

●CSR・環境レポートURL

www.fujixerox.co.jp/tcx/company/eco/

障がい者福祉団体への支援を継続的に行っているのも特徴である。チラシやニュースレターの無料カラーコピーサービスなどの本業を生かした取組のほか、イベントなどへのボランティア参加、さらに、イベントまでの準備期間での活動や会議にも積極的に参加している。

社会貢献活動に熱心に取り組むグループ企業全体の機運を継承しつつ、地域のニーズに応える形で社会貢献活動を実施しており、社内でのボランティアマインドも高まっている。今後も取組を継続することで、さらに地域に根ざした企業として事業を展開していきたいとしている。

「端数倶楽部」の取組

「端数倶楽部」は、富士ゼロックス栃木で働く従業員によって構成されているボランティア団体であり、2005年10月に活動を開始してから現在までおよそ7割の従業員が加入している。

会費は、毎月の給料と各期の賞与から、「端数」（100円未満の金額）に、個人の自由意思による「口数」（1口100円で、最低1口から最高99口の範囲で任意）をプラスし、給与天引きにより年間14回継続的に拠出している。

その拠出金を積み立て、会員が必要と考える「社会福祉」「文化・教育」「自然環境保護」「国際支援」の4分野の活動資金となっている。また、この積立金を外部に寄付するときには、会社から同額がプラスされるマッチングギフトの制度が設けられている。

主な活動内容は、寄付活動とボランティア活動であり、2010年度の寄付金額の総額は59万円で、これに会社からのマッチング59万円と会社独自の18万円が加わり、総額136万円を認定特定非営利活動法人青少年の自立を支える会(宇都宮市)、特定非営利活動法人足尾に緑を育てる会(日光市)、特定非営利活動法人もうひとつの美術館(那珂川町)等、計16件に対して拠出した。また、同年のボランティア活動の実績として、会員とその家族合わせて約60名が参加した足尾植樹、AED講習会への会員の参加が挙げられる。さらに、ペットボト

ルのキャップ収集(6,300個:ワクチン7.8名分)、授産品購入(やまゆりキャンドル150本)、無料カラーコピーサービス(約8,000枚)などの活動実績がある。



足尾植樹の様子…崖でコワ〜イ!

表：端数倶楽部寄付先団体一覧

年度	寄付先団体	スポット(義援金など)
2005	特定非営利活動法人スペシャルオリンピック日本・栃木(宇都宮市)	
2006	特定非営利活動法人スペシャルオリンピック日本・栃木(宇都宮市)、財団法人栃木YMCA(宇都宮市)、公益財団法人東日本盲導犬協会(宇都宮市)、認定特定非営利活動法人青少年の自立を支える会(宇都宮市)、赤い羽根共同募金、特定非営利活動法人もうひとつの美術館(那珂川町)	
2007	特定非営利活動法人スペシャルオリンピック日本・栃木(宇都宮市)、財団法人栃木YMCA(宇都宮市)、財団法人下野奨学会(宇都宮市)、公益財団法人東日本盲導犬協会(宇都宮市)、朝日写真ニュース(今泉小学校)、認定特定非営利活動法人青少年の自立を支える会(宇都宮市)、赤い羽根共同募金、特定非営利活動法人もうひとつの美術館(那珂川町)	中越沖地震義援金
2008	特定非営利活動法人スペシャルオリンピック日本・栃木(宇都宮市)、財団法人栃木YMCA(宇都宮市)、財団法人下野奨学会(宇都宮市)、公益財団法人東日本盲導犬協会(宇都宮市)、日本赤十字社、朝日写真ニュース(今泉小学校)、認定特定非営利活動法人青少年の自立を支える会(宇都宮市)、赤い羽根共同募金、特定非営利活動法人もうひとつの美術館(那珂川町)	ミャンマー・中国災害義援金、社会福祉法人みよぎ会やまゆり学園(足利市)、ドナルドマクドナルドハウス・チャリティーズジャパン(東京都)
2009	特定非営利活動法人スペシャルオリンピック日本・栃木(宇都宮市)、財団法人栃木YMCA(宇都宮市)、財団法人下野奨学会(宇都宮市)、公益財団法人東日本盲導犬協会(宇都宮市)、日本赤十字社、朝日写真ニュース(今泉小学校)、認定特定非営利活動法人青少年の自立を支える会(宇都宮市)、赤い羽根共同募金、特定非営利活動法人足尾に緑を育てる会(日光市)、特定非営利活動法人もうひとつの美術館(那珂川町)	学校法人アジア学院(那須塩原市)、ストリートチルドレン芸術祭(東京都)
2010	特定非営利活動法人スペシャルオリンピック日本・栃木(宇都宮市)、財団法人栃木YMCA(宇都宮市)、財団法人下野奨学会(宇都宮市)、公益財団法人東日本盲導犬協会(宇都宮市)、日本赤十字社、朝日写真ニュース(今泉小学校)、認定特定非営利活動法人青少年の自立を支える会(宇都宮市)、赤い羽根共同募金、特定非営利活動法人足尾に緑を育てる会(日光市)、特定非営利活動法人もうひとつの美術館(那珂川町)、社団法人栃木県緑化推進委員会(宇都宮市)、栃木県障害者文化祭実行委員会(宇都宮市)、宇都宮市民活動助成基金(宇都宮市)、あしかが子育て応援ネット(足利市)	ストリートチルドレン芸術祭(東京都)、東日本大震災義援金

「スペシャルオリンピックス」への支援

2004年から、知的発達障がいのある人たちのスポーツの祭典であるスペシャルオリンピックスを継続的に支援している。きっかけは、2005年2月の冬季世界大会（開催地：長野県）にあわせて行われた「500万人トーチラン in 宇都宮」の事務局として企画・運営に直接関わったことである。

「500万人トーチラン」とは、スペシャルオリンピックスに対する理解を一人でも多くの人々に深めてもらいたい、関心を持ってもらいたいという思いから始まったもので、トーチを持つアスリート（障がい者）とそれをサポートする健常者が一体になって市内を走破した。準備期間中は富士ゼロックス栃木の会議室を活動場所として提供し、トーチラン当日は社長以下約50名の端数倶楽部会員がボランティアとして参加し、受付や駐車場案内の役割を担った。

現在は1年おきに開催されるスペシャルオリンピックス栃木県地区大会をサポートしている。また、特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・栃木（宇都宮市）の会員になっており、同団体が発行している「SON・栃木ニュースレター」のカラーコピーを無料で行っている。



「500万人トーチラン」参加社員（一部）

とちぎYMCA チャリティーランへの協力

富士ゼロックス栃木では、財団法人とちぎYMCA（宇都宮市）に対しても支援を行っている。2010年度はチャリティーラン当日のランナー30名（6チーム）及び富士山キャンプのボランティアを派遣した。

チャリティーランとは、障がい児・者支援を目的に、参加費で障がいのある子どもたちのプログラムを支援するとともに、アスリート（障がい者）とそれをサポートする健常者が共に走ることにより、「障がい」に対する理解が深まることを目的とした駅伝大会で、日本では1987年に東京で初めて開催され、現在では全国14ヶ所で開催されている。

栃木県は2010年で第5回を迎え、栃木

県総合運動公園に約700名の参加者・ボランティアが集まった。

チャリティーランでの収益金は障がい児・者の富士山キャンプなど、障がいのある子どもたちを励まし、自立を促すための事業に使用されている。



とちぎYMCA チャリティーランの様子